

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第50号

[2013年3月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第50号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー	[2]
国内から	
・ ベトナム南部の魅力	[4]
編集後記	[6]
次号の予定	[6]



メソトマンスリー

大山健康財団授賞式に参加しました！



【メソト＝田畑 彩生】

当会代表が、長年の功績を讃えられ、大山健康財団様より第39回大山健康財団激励賞を頂戴しました。

この大山健康財団激励賞は予防医学・公衆衛生・国際医療保健協力の分野で、国内または途上国において、長年の活動や功績のあった人や団体を顕彰するものです。

AMDA やシェア＝国際保健協力市民の会の代表の方々など、国際医療保健協力の活動に長年尽力された方々へ授与される歴史ある素晴らしい賞です。



小林代表、ご受賞おめでとうございます。この賞の一部は、メータオ・クリニック支援の会の更なる発展の為に、NPO 法人申請などにご支援頂ける事となりました。小林先生、ますますのご活躍を心よりお祈りいたします。ありがとうございました！

←JAM スタッフとともに記念撮影
左から梶、秋山、小林代表、田畑

JAM オフィスできました



【メソト＝前川 由佳】

JAM 発足6年目、ついにクリニック内に JAM オフィスができました。

学校保健との共同オフィス。今まではカバンに文房具一式、パソコン、資料を詰め込んで、移動オフィスバッグとともに、空いてる場所を探して作業を行っていました。

これからはオフィスを拠点に活動ができて、どんどん重たくなるカバンにもさよなら、よりフットワーク軽く動けるようになります。「JAM スタッフどこにいるのー？」と、クリニックスタッフが私たちを探す手間も解消されるかな。JAM スタッフは、ここにいます。

クリニックにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



クリニックに入って左手建物の通路を左折、そのすぐ左にあります。JAM ステッカーが目印です。



移民学校修了式と感謝の気持ち



【メソト＝前川 由佳】

3月が学年末となる移民学校。

学年末テストも終え、無事に移民学校の学生たちは修了式を迎えています。家計を支えるため、家族の仕事の事情など、移民として様々な変化を受け入れながらの生活、その中で子どもたちが教育を受け続けることはそう簡単ではありません。そんな彼らが迎える修了式は、1年間勉強を続けてきた、続けられた証となる特別な日なのです。

お父さん、お母さんも参加し、子どもたちの晴れの姿を見つめています。

学校の先生よりお父さん、お母さんへ。

教育は宝です。この宝を与えてくださったご両親のみなさまに心より感謝しています。子どもたちに教育の時間を与えてくれているご両親。多くの親は工場での労働、農家や日雇いの仕事で生活を支えています。決して余裕のある生活ではないけれど、子どもたちの教育の意味を理解し、学校に送り出してくれるその気持ちに改めて感謝する1日でもありました。

今から5月までは夏休み、そして新学期を迎えます。ちょっと焼けて大きくなった子どもたちと、ひとりでも多くの新入生と両親とともに迎える新学期が今から楽しみです。



きょうのゆめ



【メソト＝前川 由佳】

きょうのスタッフの夢は、ニェンニェンウエ、25歳。メータオ・クリニック学校保健ユニットのスタッフです。

モン州、タトゥンの出身で、2007年にメソトへ移住、他機関で働いているときにメータオ・クリニックのことを知り、2009年より学校保健ユニットで働き始めました。学校保健の仕事は初めよくわからなかったけど、働き始めたら好きになり、いまでは勤続4年になります。

お仕事の中で特に好きなことは・・・学校保健アセスメントとメンタルヘルスに関わることだそう。

夢を聞いてみると、昔は弁護士になりたかったんだ、と。

村にいるときはビルマ政府が良いか悪いか分からなかった、でも外に出て、政府が悪いことを知って、みんなを助けるために弁護士になりたいと思ったの。でも、今は家族もできて、子どももできて、状況が変わったんだけど、新しい夢はね…

ニェンニェンウエが今挑戦していることは、チェンマイにある大学の財務・経理学コースへの入学です。筆記試験をパスして、残る関門はインタビューのみ。

ここで勉強できたら、ビルマでも認められる終了証をもらえるの。そうしたら、村に帰って、仕事を探すことも考えてるよ。メソトでの生活は楽しくてクリニックがある限りここにはいたいとも思うけど、やっぱり自分の土地に戻りたいの。



2年前に結婚、1児の母でもある彼女。やっぱり子どものためにしっかりした教育を受けさせたい、その思いが新たな挑戦への力になっています。

そして、1歳5ヶ月になる息子に託すゆめは、歌って踊れるお医者さん、だそうです。

ゆめを目指して、ただ今踊りを練習中。かなり有望です。

ニェンニェンウエと息子のソーピエソーンくん。
毎日2人で学校保健オフィスに通っています。

国内から

ベトナム南部の魅力

【東京＝稲岡 希実子】

カインホア省の省都ニャチャン。





ベトナム南部のリゾート地として知られるカインホア省ニャチャンに調査目的で渡航しました。1週間近くの滞在でしたが、その間に体験したベトナム南部の魅力を皆様にご紹介いたします。



ご存知の方も多いと思いますが、ベトナムは中国、ラオス、カンボジアに囲まれた東南アジアのインドシナ半島東部に位置する社会主義共和国です。タツノオトシゴの様な形をしており、その丁度おなかの部分にあたる場所が、ニャチャン省都です。

ここは、チャンパ王国時代は港町として賑わっていましたが、フランス領となって以降、年間を通じて暖かい為、ビーチリゾート開発が進んだそうです。右の写真が中心街の東側に延びるプロムナード沿いに約5km続く美しいビーチです。

右下の写真は、中心街からタクシーで10分程の場所にあるポーナガル遺跡です。さかのぼる事1200年前、ここニャチャン一帯から中部ダナン付近まではチャンパ王国が築かれており、北のハノイとも南のホーチミンとも異なる文化、宗教、慣習が培われていました。ベトナムは古くから仏教が浸透していった国ですが、チャンパ王国ではインド文化を取り入れ、ヒンドゥー、イスラムが盛んだった様です。



ちょうど、お隣のラオス南部にもクメール王朝の遺跡ワットプーが残っており、そこでは建物はヒンドゥー教ですが、中には仏様が鎮座されています。近代的なビーチリゾートと歴史文化に触れる事が出来る町ニャチャンは、多くの観光客を魅了し続けます。

